

風紋

vol.69 2021 / Spring

鳥取大学広報誌 FU-MON

ようこそ
鳥取大学へ
Welcome!



新入生歓迎特集

新入生 & 保護者の皆さまへ
送るエール!

注目の
研究

半導体微細加工技術を活用し
次世代の医療デバイスを開発

私たちの
研究室

農学部生命環境農学科 里地里山環境管理学コース
生態工学研究室

トリカツ!

農業サークル"句むすび"
句の野菜から広がり、地域交流の輪!

教養の場

教養科目「経済学」

オンライン
卒業式

令和2年度
鳥取大学卒業式・学位記授与式



自然豊かな環境の鳥取大学で 「知の基礎」作りに励み、自分を磨く

新入生の皆さん、また保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。皆さんの入学を心より歓迎いたします。

今年の入学式は、新型コロナウイルス感染症の影響により保護者の皆さまには入学式にご参加いただくことができなかったため、本誌面を用いて保護者の皆さまへ歓迎のメッセージを贈らせていただくことといたしました。

鳥取大学は、前身校の時代から地域の課題を地域の人々と共に考え解決し、その過程で得られた知見を広く国際社会に発信し、科学の発展をはじめ世界平和や福祉にも大きく貢献してきました。こうした伝統を受け継ぎ、「地域に根ざし、国際的に飛躍する大学」として教

育、研究および社会貢献に取り組んできています。このような経緯からできた本学の基本理念は、実践を通して知識を深め理論を身に付け、地域から国際社会まで広く社会に貢献する「知と実践の融合」です。

新入生の皆さんには、これからの4年間、6年間、鳥取大学において、基本理念「知と実践の融合」のもと、「知の基礎」作りに励んでもらいます。それは、さまざまな視点、方向から考えることのできる柔軟な考え方、常に積極的に新しい知識を仕入れ、それを現場で使える知識に昇華させる自ら学ぶ姿勢、正しい情報を見極め、それに基づいて的確に判断する力などを身に付けることです。4年後、6年後に皆さんが

President Message

出てゆく社会は、IoTで全ての人とモノがつながり、さまざまな知識や情報が共有され、その結果、今までにない新しい価値が生み出される、また、AIによりロボットや自動走行の自動車、診療などを可能にする社会です。便利ではありませんが、目まぐるしいほど変化の速い社会です。そんな社会においては、あふれる情報やうわさに惑わされないで、現場に足を運び、自分の目で見て、自分の耳で聞いて、事実を見極め、自分の頭で判断し、行動する。また、自分の行動に責任を持つ。そういった行動パターンが社

会の一員としてますます重要になります。そのため「知の基礎」作りです。

鳥取大学では教職員が丸となって、新入生の皆さんのこれからの学生生活が安全で有意義なものになるように精いっぱいサポートしていきます。保護者の皆さまには、本学の諸活動に対してご理解いただくと同時に、学生諸君へのさまざまなご支援をよろしくお願いいたします。

鳥取大学長 中島廣光

Hirimitsu Nakajima



新入生 & 保護者の皆さまへ 送るエール!



学部長

霜村 典宏

Norihiro Shimomura

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、保護者の皆さまにも、心よりお祝い申し上げます。

本年度もコロナ感染症対策に留意したスタートとなりました。このような状況下では友人づくりやサークル活動が制限され、学生の孤立が心配されます。しかし、ご安心ください。農学部は独自の充実した学生サポート体制を用意しています。それは、学級教員とチューター教員による「ダブルチューター制」です。

学級教員とチューター教員は、それぞれ学生と積極的にコミュニケーションを図りながら、学習面のみならず生活面に至るまで、きめ細かなサポートを実施します。教職員一同は、学生が「鳥取大学農学部で学んで本当に良かった」と実感できる環境を提供し、教育する所存です。

しかし、学生の成長をサポートするためには、教職員の力のみでは足りないのが現状です。保護者の方々との情報共有と連携したサポートがとても大切です。保護者の皆さまには、これまで以上のご理解とご協力をお願い申し上げます。

ダブルチューター制による学生サポート



学部長

坂口 裕樹

Hiroki Sakaguchi

新入生の皆さん、そして保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。

「青は藍より出でて藍より青し」という有名な故事成語があります。これを学校教育に置き換えるなら、教え子が恩師の学識やスキルを超えることを意味するものと理解します。教育の本質はまさにここにあると思っています。教員の務めは、自分のミニチュアやコピーを作るのではなく、私たちを超える力量を備えた世の中に必要とされる人材を育成することであると信じています。

私の研究室では、この春に10名を超える学生が卒業・修了しました。それぞれが思い思いの文章で礼状を寄せてくれました。それらをご紹介できないのは残念ですが、恩師への感謝をここまで表現力をもって示すことは、当時の私にはできませんでした。教員冥利に尽きるとはこのことで、きっと彼らは世の中に必要とされる人になってくれることでしょう。

優れた人材の育成には保護者の皆さまのご協力も不可欠です。われわれ教職員と思いを一にして応援してくださいませよう。よろしくお願いいたします。

世の中に必要とされる人になる



学部長

中村 廣繁

Hiroshige Nakamura

新入生および保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。鳥取大学医学部は、鳥取県西部の商都・米子市にあります。この街は豊かな自然に恵まれ、白砂青松の弓ヶ浜半島から美保湾と大山を望む絶景には、思わず息をのまずにはいられません。じっくりと医学を学ぶには絶好の環境です。まさに、この地には「ここでしか学べない医学」があります。多くの試練で苦しいとき、疲れたときには、豊かな自然がいつでも皆さんの心を癒してくれるでしょう。

医学を学ぶことは未知への挑戦であり、感動の連続です。皆さんが体験することは、すべてが新鮮で、驚き、喜び、悲しみなど、いろいろな感情が沸き上がります。五感を澄まして、たくさんの感動を味わい、医学に最も大切な人間力を磨いてほしいと思います。自分の可能性を信じ、仲間を大切に、「ここでしか学べない医学」に積極的にチャレンジしましょう。私たちは、皆さんが立派な医療人になるための礎である大切な時間を、全力で支援します。

「ここでしか学べない医学」に挑戦しよう



学部長

岸本 寛

Satoru Kishimoto

新入生の皆さん、保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。新たな生活に期待を膨らませておられることと思います。

今、新型コロナウイルスが世界を脅威にさらしていますが、私たちが暮らす「地域」でも新たなステージに向き合うことが求められています。地域学部は、こうした諸課題や人々の願いに応えるためにさまざまな知識を集め、組み合わせ、経験を通して地域や社会に貢献する実践力に高めることを目指しています。

学生の皆さんは、挑戦する気持ちと多様な知を積極的に取り込み活かしていくという意欲さえあれば、いろいろなことができます。地域学部は、講義のほか、地域実習や海外フィールドワークなど、鳥取だけでなく、県を越え、国を越えて学び体験する機会を提供しています。学び続ける力、地域や海外での現地感覚・現場感覚、さまざまな人びとと協働して地域社会を創っていくことは、一生の財産になります。地域学部の学びのなかで、ぜひ新しい自分を発見してください。

新たなステージに向き合える社会的実践力

どんな悩みでも対応 / なんでも相談

学生支援センターでは「なんでも相談」を行っています

「学生なんでも相談窓口」では、学生生活におけるあらゆる疑問や悩みや困っていることを聞いて、より適切な解決方法のアドバイスや相談先(学内外の関係者)を紹介しています。

「身近な人には相談しづらい」「気がかりなことがある」「何となく話をしてみたい」といった場合にも、気軽にご利用いただけます。個人の秘密は厳守されます。

些細な悩みだからと思わないで、まずは一歩踏み出してみましょう！

修学のこと

- 履修登録が分からない。
- レポートが書けない。
- 勉強方法が分からない。
- 障がいや疾患などのために修学上のサポートを希望したい。
- 修学意欲がわからない。
- 授業に出られない。

対人関係のこと

- 人間関係トラブル。
- 対人関係が苦手。
- 友達ができない。

進路のこと

- 将来に不安がある。
- 進路変更を考えている。

学生生活のこと

- アルバイトをやめたい。
- しつこい訪問販売に困っている。
- 生活のリズムがつかめない。
- 不審者に声をかけられた。

専任教員やカウンセラーが相談にのります。
個室もあり、プライバシーが守られた状態で
相談できるので安心です。



学生支援センターはここにあります！

風紋vol.65で
センターの特集が
ご覧になれます！



鳥取キャンパス

共通教育A棟2階
(平日のみ 8:30~17:15)

米子キャンパス (なんでも相談窓口)

総合教育棟1階学務課学生係
(平日のみ 8:30~17:00)

詳しくはWEBサイトをご覧ください

<http://www.st-support.adm.tottori-u.ac.jp>

スマートフォンの方はこちら！



緑の下の
チカラ持ち！

学生生活 全力サポート

学生支援センター

新生活、新入生は期待とともに不安が膨らむもの。
ひとりで悩まず、学生支援センターに相談してください。
小さな悩みから大きな悩みまで、しっかりサポートします。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。新しい学生生活が始まりました。それぞれの学生生活を充実させてほしいと願っています。

自分で判断し行動することが必要な大学生活に戸惑っている人もいるかもしれません。ひとり暮らしを始めた人は、生活そのものが大きく変わったことでしょう。特に、今はCOVID-19の影響を大きく受け、人とのつながりが制限されている状況であり、慣れない環境に不安を抱えている人もいることと思います。

「どうしたらいいのかわからない」「誰に相談したらいいの?」、そんなあなたのためにあるのが学生支援センターです。学生支援センターは3部門で構成

されています。「なんでも相談」を受け付ける「学生相談部門」、課外活動・奨学金・事件事故など学生生活面での窓口の役割を担う「学生支援部門」、障がいや疾患などにより修学上のサポートを希望する学生への支援を行う「障がい学生支援部門」です。

「なんでも相談」では、相談受付担当者(インターカー)が大小どんな相談も受け付けます。必要に応じて、専任教員、カウンセラー、コーディネーターが相談にのり、学内・外の機関とも連携してあなたの学生生活を支援します。

覚えておいてください。困ったときには「なんでも相談」へ。

サポート体制図



ごとう とも のぶ

後藤 知伸 教授
学生支援センター長

各部署や学外の機関と連携を図りながら
健やかな学生生活をバックアップ！

注目の研究

半導体微細加工技術を活用し次世代の医療デバイスを開発



まつなが ただお
松永 忠雄 准教授
工学部電気情報系学科

専門 半導体微細加工技術/医工学
趣味 ドライブ/人との交流

体に負担の少ない機器を用いて検査や治療を行う低侵襲医療が広く行われるようになってきました。将来、さらに体の深部や細部まで低侵襲医療での治療を可能にするため、半導体微細加工技術を駆使し、医工連携により次世代の医療デバイスを開発しています。

円筒面に微細な加工を施す

医療用のチューブは、造影剤などの薬液やガイドワイヤーを通すための内空が必要です。円筒形状の表面もしくは内空の内側にいろいろな電気配線や回路を実装したり、多層配線を実施したりすることで、薬液やガイドワイヤーを通すための空間を内空に確保しながら、さまざまな機能を付加させることができます。

例えば、従来の内視鏡は直径1mm以下まで細くすると解像度が落ちてしまうことが課題でしたが、直径1mmのチューブの表面に特殊な形状のコイルを円筒面微細加工技術により作製し、チューブ内に通した1本の光ファイバ

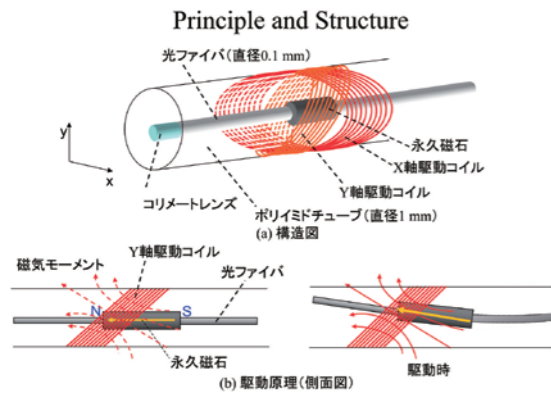


図2 電磁駆動細径内視鏡(直径1mm)

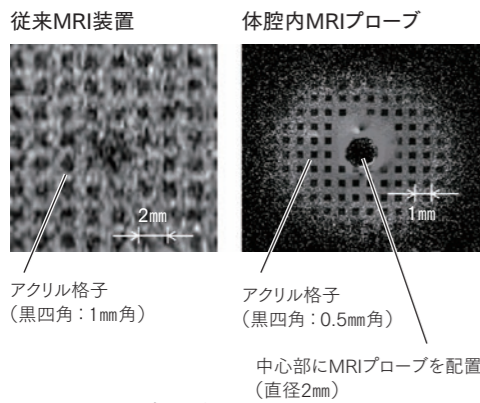


図3 体内MRIプローブ

バーが回転するように走査することで、細くても解像度が落ちない内視鏡を開発することができました(図2)。

また、MRI装置に用いられるMR信号を受信するためのコイルを直径2mmのカテーテル先端に作製し、体の深部に挿入して病変部位の近くでMR信号を受信することで、血管内や消化管などの臓器にできた小さな初期のがんなども、高解像度で画像化・視覚化することが可能であることを確認しました(図3)。

また、ロボット外科手術で使われる手術支援ロボットの手である「鉗子」に、触覚センサなどを実装し、よりヒトの手に近い感覚や細かな操作ができるシステム開発を本学医学部との医工連携により進めています(図4)。

より細く高機能・多機能に

昨今の医療現場では、体を大きく切開せずに内視鏡やカテーテルなどの医療機器を用いた低侵襲医療が多く取り入れられるようになってきています。鳥取大学医学部で盛んに行われているロボット外科手術も低侵襲医療の一つです。このような低侵襲医療機器は、挿入性や刺入性の観点から細径で円筒形状である必要があります。そして、今後、より細い血管や細胞レベルまで低侵襲医療での診断や治療をできるようにするためには、さらに細く、かつ高機能で多機能な円筒のデバイスが求められており、技術的なブレイクスルーが必要と考えます。

そこで、私たちがもともと持っていた半導体微細加工技術を応用したMEMS技術の出番です。MEMSとは、半導体のシリコン基板上に電子回路やセンサーなどをひとまとめにしたデバイスを指します。車用の加速度センサーやスマートフォンジャイロスコープ「注1」など、あらゆる製品で使用されており、現代の生活に欠かせないものとなっています。

従来のMEMSは、平面の基板上にいろいろなセンサーや回路などを実装「注2」していましたが、私たちは円

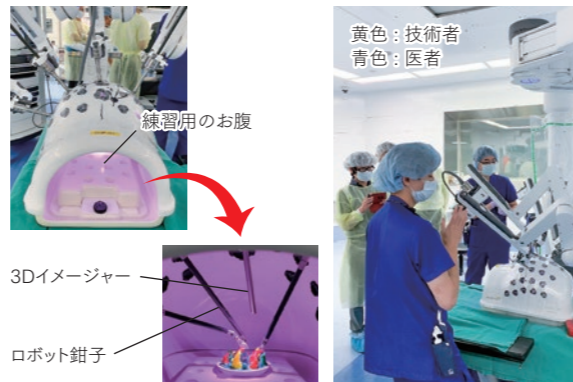


図4 ロボット鉗子の力覚センサ開発の様子(鳥大病院にて工学者と医師との医工連携)

「人の役に立つ」ものづくり

開発したデバイスは、前職の東北大学在籍中に立ち上げたベンチャー企業でさらに技術を磨き、コスト面や信頼性の検討を行って、臨床現場での実用化を目指します。最近では、直径0.4mmほどの細径の針に温度センサーを実装した体温計を商品化しました。体温は、人や動物の体調の変化をみる大切なパラメーターです。この針型の体温計を使うことで、体の内側や手術中の臓器などの体温を正確に測ることができま

また、鳥取大学では医工連携だけで

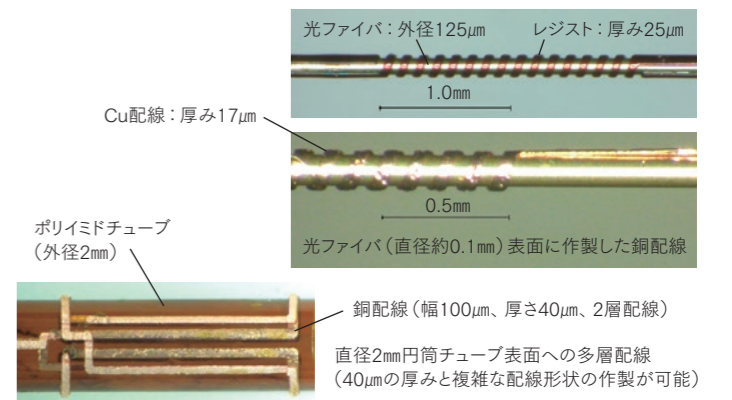


図1 円筒基板上に作製した微細電気配線の例

筒面微細加工技術を独自に開発し、円筒形状である医療デバイスにさまざまな機能を実装することを可能にしました(図1)。この円筒面微細加工技術を活用し、さまざまな分野の学内外の臨床医と連携(医工連携)して、新しい低侵襲医療デバイスの開発を進めています。

「注1」ジャイロスコープ
3軸方向のセンサーを用いて物体の角度(回転角度)や角速度(角加速度)を検出する計測器。

「注2」実装
新しい機能などを追加したり、組み込んだり、くっつけたりすること。

なく、農工連携も積極的に行っています。一辺6mmの小さな立方体の光センサーを、ピニルハウスで栽培されている植物の間にいくつも設置し、どこにどのくらいの光が入っているのかを検出しています。小さな光センサーなので植物の生育を阻害する心配はありません。検出したデータを基に、植物を育てる際の最適な植栽間隔や成長過程に応じた色(光の波長)などの光環境を見つけて出すことができます。

光ファイバーのような細くて小さなものの先端にいろいろなものを接合する技術は、他では真似することが難しい、オンリーワンの技術です。オンリーワンの技術と既存の技術を組み合わせ、医療や農業の現場に寄り添った新しいものづくり、「人の役に立つ」。それが私の研究のモチベーションとなっています。

これまでの共同研究や学会などを通じて出会ったさまざまな研究分野の人々とのつながりは、私の宝物です。実際に会って話し、互いの持つ知識や技術を出し合うこと(異分野融合)で、テクノロジが進歩していくと考えています。これからも人との交流を大切に、オンリーワンの技術を生かして「現場から離れないものづくり」を続けていきます。

私たちの研究室



農学部生命環境農学科 里地里山環境管理学コース

生態工学研究室

担当教員 日置 佳之 教授

豊かな自然を取り戻し、次世代へつなげる手法を探る



キャンパス内の庭の手入れの様子

日本の里山では、さまざまな開発や、農山村での生活・生産様式の変化に伴う森林の過少利用などによって生態系が劣化し、絶滅の危機に瀕している動植物が多い。生態工学研究室では、自然と人間の健全な関係の構築を目指し、自然再生に関する理論と技術を研究している。

代表的な事例に「湿原再生」がある。「まずは対象地の植生・日射量・地下水位等を調査し、劣化の原因を探ります。それを基に再生計画を立案し、順次実行します」と日置佳之教授。湿原を覆う樹木を伐採して日光を入れ、競合する植物を刈り取り、地下水位を上げ、水路を作る。すると湿原は、徐々に元の姿を取り戻す。

学生たちは、こうした実動の自然再生プロジェクトに関わりながら自身の研究を進めている。当然フィールドワークが多く、教授は「ほとんどアウトドアクラブ」と笑う。皆、野外活動が大好きで、教授を筆頭に木登り、薪割りまでお手のもの。一方、研究室内でパソコンに向かい、黙々とデータ解析をすることも。地理情報システム等のハイテク技術を駆使した多角的な診断で無駄なく研究を進める。

とはいえ、自然の回復には時間が必要だ。「再生して終わり」ではなく、継続的な保全も大事。ゆえに彼らは、今日も森へ出かける。

「直近5年以内の」 卒業生の主な進路

環境省(国立公園レンジャー)、大阪府、岡山県、鳥取県(林学職)、アジア航測、長大、ウエスコ、西武造園、日比谷アメニス、内山緑地建設、モンベルほか



津黒高原湿原(岡山県真庭市)

かつては水田でしたが、耕作が放棄された後、長年放置されていた山あいの湿原。2012年に現地調査を行い、翌年より湿原再生作業に着手しました。高木林を一部伐採し太陽光が当たるようになると、希少な湿原植物が復活!水路や池を作り、散策路や展望台も整備、自然観察を楽しめる場所へと変わっています。

近年は、湿原周辺に広がる里山の活用も注目されています。そのためにはまず基礎研究が必要。上空からレーザーで計測した地形情報の解析、昔の土地利用の聞き取り調査に取り組んでいます。



奥大山・鏡ヶ成(鳥取県江府町)

大山の南東側にある鏡ヶ成は、山地湿原とススキ草原が広がる高原です。縮小してしまった湿原の再生を目指し、繁茂した低木を毎年伐採。現在、徐々に植生が改善しています。また草原は、春先に火入れをして効率よく維持管理。火入れ後は一面真っ黒ですが、1カ月もするときれいな緑色の草でいっぱいになるんですよ。

航空機からレーザーを照射し地表を高密度で測量する「LIDARデータ」を使い、樹高や密度まで分かる「奥大山の三次元植生図」作成の研究も行っています。



自然再生のためのプロジェクト型研究

この研究室では、国や地方自治体、民間企業、地域の人々と連携し、常に複数の自然再生事業に取り組んでいます。実際の現場を見て調査・解析し、計画・設計を考え、工事を実行するところまで一貫して行うことができるプロジェクトの過程は、学生にとって最高の研究材料ではないでしょうか。

知識や技を習得し、その力で生きていける「専門家」になってもらいたいので、現場作業はもちろん、連絡調整、各種申請書類の作成、作業の段取り等も学生自身に担当してもらいます。全てはつながっており、全体を理解することがとても大事なのです。



ひおき よしゆき
日置 佳之 教授
農学部生命環境農学科
里地里山環境管理学コース



日南町のホタル(鳥取県日南町)

日南町福万来は、清流の周りを飛ぶゲンジボタルと、森の中で光るヒメボタルの両方が同時期に見られる珍しいスポット。毎年数多くのホタルが飛び交うのですが、幼虫たちの生育環境は謎だらけ。その秘密に迫ろうと、幼虫の生息場所・数・大きさを詳しく調べたり、どの時間帯に一番光るのか等を調査しています。

今年は、山に生息するヒメボタルの幼虫がどんな環境を好むのかを調査する予定。研究結果をホタルの生息環境保全やエコツーリズムにつなげていきたいと考えています。



大山オオタカの森(鳥取県大山町)

中国地方最高峰の大山北麓の赤松林には、準絶滅危惧種の猛禽類「オオタカ」が生息しています。オオタカは木々をすり抜けるように飛ぶので、松の間隔が密だと暮らづらい。それに配慮しながら、年ごとに区域を決めて70%程度間伐し、残した赤松から落ちた種で新たな松林を作る「天然下種更新」を行っています。

この森には、オオタカが餌として好むヒヨドリ、キジバトといった中型鳥類も多く生息。生物多様性豊かな森林を守るため、こうした更新伐が必要なんです。



CHECK THIS OUT!

鳥大生の活躍を紹介します

農業サークル"旬むすび"

トリカツ!



※撮影時のみマスクを外しています。

旬の野菜から広がれ、地域交流の輪!

失敗もたまにあるけれど、みんなで楽しく野菜づくり!

「旬むすび」は、旬の野菜を食卓へ結ぶをコンセプトに、野菜づくり・販売などを通して地域とのつながりを築いている農業サークルだ。畑を耕すことから始まり、定植・水やり・施肥・除草・害虫駆除・収穫・販売まで、すべて自分たちの手で行っている。

現在メンバーは7人。農学部ばかりかと思いきや、地域学部の学生もいるという。代表の寺田晃盛さん(農学部3年)は、「野菜を作りたいという人もいれば、販売がしたい、地域活動がしたいという人もいます。自分のやりたいことをみんなで楽しくできるのがうちの魅力」と語る。おそろいの作業服、弾ける笑顔がその言葉を裏付けている。

本格的な野菜づくりは昨年から。地元農家から鳥取砂丘コナン空港のそばにある畑を借り、枝豆、ナス、ピーマン、ジャガイモ、小松菜、白菜等、さまざまな野菜に挑戦した。しかし、この地域の土壌は鳥取砂丘から続くサラサラの砂地。「生長がゆっくりだし、水の管理が難しい。始めた当初はスプリンクラーが足りず、水やりが不十分で、サツマイモは失敗しました」と寺田さん。それだけに収穫の喜びは大きく、

「トマトがメツチャ美味しかった!」「キュウリは浅漬けにして食べた」と、メンバーは農業の楽しさに瞳を輝かせる。

旬を結ぶ新たな挑戦は農業体験

秋植えの冬作で開催した「親子の農業体験」イベントは、新たな可能性を感じる展開となった。SNSに上げていた旬むすびの活動を見て、子育て応援団体「Tottori Mamas」が、声をかけてくれたのがきっかけ。「僕たちも旬を結ぶ方法がほかにも何かないかと考えていたところだった」と、連携開催が実現した。「小さなお子さん1人では大根が抜けてなくて、手伝って一緒に抜いたのが楽しかった」「野菜嫌いだっただお子さんが、ホウレン草のみそ汁を美味しく食べてと聞いてうれしかった」と、初めての企画に達成感があふれた。

こうした充実の1年間には、「食と農林漁業学生アワード2020」(※)で「企業賞」という実りももたらした。赤い糸がキュッと結ばれたロゴマークのように、旬むすびが育むつながりの輪は少しずつ広がっている。

※食と農林漁業学生アワード
全国の農林漁業や食に関する活動に取り
組む学生団体を表彰するコンテスト。



旬むすび
SYUN MUSUBI

旬の野菜を食卓へ結ぶ。



親子の農業体験

子育て応援団体「Tottori Mamas」と連携し、野菜オーナーになって親子で農業を体験していただくイベントを行っています。まずは2種類の野菜を選び、自分の畝に種まき。収穫までの管理は私たちが行います。畑の様子を写真に撮り公式SNSに毎週アップ、自分の野菜の成長過程を見られるようにしているんですよ。そして収穫は、再び一緒に作業。大きく実ったMY野菜を見て、うれしそうなお子さんの笑顔が最高です!

野菜づくり

金曜日にミーティング、土曜日の午後にメンバー全員で農作業を行うのが基本の活動です。定植は春・秋の年2回。くわを使って1列ずつ畝をつくり、種苗を植えていきます。雑草対策のため、ビニールマルチをかけることも。水はけのいい砂地なので、水の管理はとても大事。スプリンクラーの水栓開閉は当番を決めて行っています。堆肥は、牧場からもらった牛糞を使用。野菜に付いた虫はできるだけ手作業で除去します。

ラーメン店とのコラボ



鳥大生に大人気のラーメン店が、旬むすびの野菜を使ったオリジナルメニュー「冷製ベジポタつけ麺」を考案してくれました。つけだれは優しい野菜味!

野菜販売



地元のIT企業が始めた農作物販売サービスに旬むすびの野菜を出品しました。また、鳥大近くにある児童クラブでも販売、お迎えに来られた保護者の方に好評でした。



令和2年度 鳥取大学卒業式・学位記授与式

オンライン

鳥取県外出身者が8割を占める本学ですが、例年であれば、3月に就職・進学準備等で卒業生・修了生の多くが全国各地に移動し、卒業式・学位記授与式のために鳥取の地に戻って、教職員、在校生及び保護者の方々とともに新しい門出をお祝いしてきました。

一方、私たち鳥取大学は、健康で活力にあふれた状態で卒業生・修了生を社会に送り出す責務があります。

このコロナ禍にあって、その責務を果たすためにどうするのか、多くの議論を重ねた結果、「人が集まらない・集めない卒業式(完全オンライン方式)」を実施しました。



配信日 | 令和3年3月 5日(金) <米子地区>
令和3年3月17日(水) <鳥取地区>

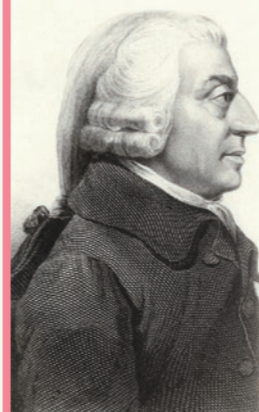
オンラインによる式典が配信された後、学部(研究科)・学科(専攻)・コース・研究室ごとにGoogle Meetを使用した式典が開催されました。



当日の工学部社会システム土木系学科の様子

米子地区の研究科長、各学科長からのお祝いの言葉

経済学の父 アダム・スミスの『生涯』



- 1723年 スコットランド・カコーデイ生まれ
- 1740年 オックスフォード大学入学
- 1746年 オックスフォード大学退学
- 1750年 デビッド・ヒュームと親交
- 1751年 グラスゴー大学教授に就任
- 1759年 『道徳感情論』出版
- 1776年 『国富論』出版
- 1790年 スコットランド・エディンバラ病死

豊かな教養と幅広い視野を備えた
素敵な大人になるための
『全学共通科目』を
ピックアップしてご紹介します。

現代社会で
生きる力を磨く

教養の場



担当教員



ただし けんいちろう
多田 憲一郎 教授
地域学部 地域学科
地域創造コース

教養科目 経済学

経済学は、市場システムの法則を解明する学問です。市場の法則を解明する方法として、ミクロ経済学とマクロ経済学の2つのアプローチがあります。本講義では、この2つのアプローチにより市場の特徴を分析して、市場がどのようなシステムなのか、解説していきます。



受講した学生の声



のがみ ひなこ
野上 日菜子 さん
地域学部地域学科地域創造コース 2年

● この授業を選んだ理由は？

私は、高校時代に、経済やビジネスの基礎について授業で習いました。その時に理解しきれなかったことを改めて理解したいと思ったことが「経済学」の講義を受講した理由です。

● 授業を受けた感想は？

「経済学」の講義では、私たちの身近に起きている事例をもとに、ミクロ経済学やマクロ経済学について学びました。消費者行動理論において、1つの商品の「効用(商品から得られる喜びや満足)」が価格変化によって増減する現象は、とくに印象に残っています。

経済学の観点から、日常生活を改めて考えてみよう！

経済学は18世紀の半ば、イギリスの学者アダム・スミスの『国富論』の刊行により、誕生しました。経済学は難しいイメージがあり、経済学を受講することをためらう学生が大勢います。しかし、皆さんは、すでに経済学とつながっているのです。それは、皆さんが日常生活を通じて、毎日、経済学を学んでいるからです。例えば、日々の生活において、スーパーで食品を購入したり、飲食店で食事をしたりしていますよね。食品を購入する時、飲食店を選ぶ時、皆さんは、どのようなことを考えているでしょうか。このように「買うか否か」について、頭の中でいろいろと考えることが、実は、経済学を学ぶことなのです。本講義では、そのことを実感として理解

するためのさまざまな仕掛けを準備しています。例えば、ミクロ経済学では「なぜ、人は買物をするのか」という、皆さんが、日頃考えたこともない課題を取り上げます。ここでは、この課題に対して、「効用」や「消費者余剰」などの経済学の概念を使い、経済学ならではの解答を説明します。

私は、この講義を通じて「経済学は難しい」というイメージを払拭してもらいたいと考えています。経済学は、確かに簡単な学問ではありません。しかし、皆さんは経済学を知らなくても、日常的に消費活動を通じて経済学を学んでいます。経済学は、皆さんが日常生活を送る上で日頃考えていることを経済学の言語で表現しているだけなのです。そのことを、皆さんが実感すれば、本講義は成功したと考えています。ぜひ、気楽に「経済学」の講義を受講してください。

鳥大OB・OGと語る
「キャリア交流会」を開催

2021.2.15-16



この取組は、本学キャリアセンターおよび学友会(同窓会)と、公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構の三者主催によるもので、鳥取県内の企業に就職し活躍している本学OB・OGを計6名お招きして実現した。

開催初日には山口武視副学長から、「学生のみなさんには先輩との交流を通じて今後の就職活動の参考にしてもらいたい」との挨拶があった。

参加学生からは、「私は文系なのでIT系の企業への就職には最初は抵抗があったが、今回お話を聞いて、文系でも活躍することができると分かり、視野を広げることができた」といった感想が寄せられた。

「鳥取県と鳥取大学との連携協議会」
を開催

2021.1.20



地方創生の取り組みなどについて意見交換を行い、両者の連携協力を深めることを目的とする連携協議会をオンライン形式にて開催した。本学からは中島学長ほか各理事・学部長等が、鳥取県からは平井知事ほか各部長等計17名が出席し、「新型コロナウイルス感染症への対応」「学生の県内就職・定着促進」「専門人材の育成」をテーマに意見交換を行った。

本学からは、学生のPCR検査受検に対する財政的支援等について要望した。また鳥取県からは、学生の県内定着におけるニーズの把握、学生のリモートによるインターンシップ参加や就職活動を支援するための学内の環境整備などについて要請を受けた。

ローカル酵母を用いた新商品
「和梨のシードル」が完成

2021.1.18



連合農学研究科の児玉基一朗教授が、株式会社石見麦酒と共に鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター産の和梨を用いたシードル*の開発に成功した。

児玉教授は、地域にゆかりのある植物から抽出したローカル酵母を活用して、地域の企業とビールやパンなどの発酵食品の開発に取り組んでいる。

石見麦酒と児玉教授は、2年前から乳酸を生産する珍しいラカンセア酵母を用いてシードルの開発に挑戦していた。今回、ラカンセア酵母に加え、通常のビール製造等に用いられるサッカロマイセス酵母の2種の酵母でそれぞれ醸造したシードルを、最終的にブレンドする新手法によって、酸味、香り共に豊かな和梨のシードルが完成した。

※シードル：りんごや梨を原料として醸造されたお酒



WHAT'S NEW?



大学の動き

在学生の活躍や大学の取り組みなど、
鳥取大学の最新情報をご紹介します。

鳥大防災Lab.によるオリジナル動画
「けんくんの避難袋」が完成

2021.3.17



本学学生で構成される学生団体「鳥大防災Lab.」は、地域への防災・減災の普及啓発を目的として「避難袋作成ワークショップ」を独自に開発し、県内各地で実践してきた。

本年度は新型コロナウイルス感染症対策として、対面での活動が制限される中で、動画による普及を行うことを発案し制作に取り掛かった。このたび完成した動画は、防災に対する備えを学ぶクイズ形式の動画になっており、シナリオ作成やナレーション、動画編集などすべてを学生が担当した。

動画制作に携わった農学部4年の堀内夏樹さんからは「全ての方が防災を知り、興味を持つきっかけとなってもらえると嬉しい」と感想があった。

動画はこちら →



中島学長と外国人留学生との
意見交換会を実施

2021.3.9



この意見交換会は、本学で勉学、研究に従事している中で感じていることについて意見を述べることで、更なる大学のグローバル化を図ることを目的に実施した。

当日は日本語圏と英語圏の2グループに分かれ、それぞれ10名の学生が学長、田村理事、安延副学長と会談した。

留学生からは、「日本人学生や教職員がサポートしてくれると助かっている」と、留学生活について意見があった一方、「キャンパスの表示やアナウンスが日本語だけで分かりにくい」「英語の授業を増やしてほしい」といった国際化に向けた改善点についても意見があった。

東京藝術大学長・ヴァイオリニスト
澤和樹先生ご来訪

2020.10.31

10月31日、国立大学法人東京藝術大学の澤和樹学長が本学に来訪された。東京藝術大学は、美術学部・音楽学部の2学部10学科で構成された、130年以上の歴史を誇る国内唯一の国立総合芸術大学。創立以来、世界水準の教育研究活動を展開し、数多くの芸術家を育成・輩出されるとともに、国内外における広範かつ多様な芸術活動や社会実践等を通じて、我が国の芸術文化の継承・発展に寄与されてきた。

2016年4月に東京藝術大学長に就任された澤学長は、世界的に著名なヴァイオリニストとしてもご活躍。2020年4月からは鳥取県にゆかりのあるプロの音楽家が集う楽団「とっとりチェンバーオーケストラ」のミュージックアドバイザーを務めている。

当日は、まず学長室で中島廣光学長との対談が行われた。新型コロナウイルス感染症の蔓延とその対策、工夫など、都心と地方それぞれのコロナ禍での大学運営における課題を共有した。澤学長は、コロナ禍でさまざまなイベントや展覧会、演奏会が中止になり、学生や教員も含め、芸術活動ができなくなった大学生活にも触れられた。また、「学長としてやるべきことは、学部や校地といった「境界線」を超えた交流、総合芸術大学としての藝大を活かすことだと考えている」と述べられた。そのほか、オンライン時代ならではの新しいふるさとのあり方など、1時間以上にわたり、熱心な意見交換が行われた。



※撮影時のみマスクを外しています。

続いて、澤学長には、研究推進機構の主宰セミナー「未来を拓く流儀」に講師としてご登壇いただいた。「異分野融合でみつける未来 ～ArtsMeetScience～」と題して、ご自身のヴァイオリンとの出会い、農学や医療、福祉など異分野融合における芸術の役割、AI時代の人材育成と芸術の新たな可能性など、単独の研究領域だけではお聞きできない貴重なご講話をいただいた。

当日、澤学長は自らヴァイオリンをご持参くださり、特別に演奏をご披露いただき、美しい音色とユーモア溢れるお人柄に、会場は終始笑顔と拍手に包まれた。

両学長対談、研究セミナーを通じて、オンライン時代の新しい研究のあり方やこれまでにない融合の視点について、貴重なご示唆をいただくことができた。

対談内容はこちらをご覧ください →
<https://s.orip.tottori-u.ac.jp/dialogue/>



大学からのお知らせ

INFORMATION

鳥取大学の基金

鳥取大学では、学生支援、教育研究、国際交流及び地域貢献などの事業を支援するため、基金を設置しています。本学の各種事業にご支援いただきますようお願いいたします。

支援事業のために

学生支援のために

みらい基金

本学の基本理念に基づく目標の達成のために助成し、もって本学の振興に資することを目的としています。

教育研究支援事業

教育研究の設備整備、高度化の支援などを行います。

学生支援事業

優秀な学生への奨学金、課外活動の支援などを行います。

国際交流支援事業

本学学生の留学、外国人留学生の修学、学術交流の活性化の支援などを行います。

地域貢献支援事業

地域との連携推進、産官学の連携強化の支援などを行います。

その他 大学の発展に資する事業

その他本学の発展に資する事業を行います。

修学支援事業基金

経済的理由により修学が困難な学生を支援することを目的としています。

授業料等免除事業

授業料、入学科又は寄宿料を免除する支援を行います。

奨学金事業

学資を給付又は貸与する支援を行います。(鳥取大学とりん奨学金)

留学支援事業

海外への留学に係る費用を支援します。

TA・RA事業

学生を教育研究に係る業務に雇用するために係る経費を支援します。



ご寄附の申込方法 ※詳細は「鳥取大学の基金」のWebサイトをご参照ください。

ご協力をお願いする寄附金

ご寄附：1口 1,000円

※1口1,000円から、何口でも結構です。

- インターネットからのご寄附(クレジット決済)
 - 郵便局(ゆうちょ銀行)・銀行振込でのご寄附
- ※Webサイトから、払込取扱票等お取り寄せフォームをご利用ください。

お問い合わせ

国立大学法人鳥取大学 総務企画部 総務企画課 Tel 0857-31-5006

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101
E-mail kikin@ml.adm.tottori-u.ac.jp

鳥取大学の基金について詳しくは

鳥取大学の基金



編集後記

EDITOR'S NOTE

新入生及びその保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。今年度の入学式は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、保護者の皆さまには、ご列席いただくことができません。大変申し訳なく思っております。その代わりに新入生の保護者の皆さまに歓迎の気持ちを伝えるため、本号では新入生歓迎特集として、学長及び各学部長から、メッセージを掲載させていただきました。また、本号では特集で紹介いたしました学生支援センターをはじめ、様々な形で学生を支援しておりますので、ご安心いただけます。新入生はじめ全ての学生の皆さまが充実した学生生活を送られるために、教職員一同、全力でサポートしていきます。

今後も本誌では大学の教育や研究の情報、学生の活動など「鳥取大学の今」をお届けしていきます。本誌を通じて少しでも大学を身近に感じていただければ幸いです。また、今後よりよい誌面作りを心掛けてまいりますので、忌憚ないご意見・ご要望をお寄せいただければ幸いです。本号も「風紋」を最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。



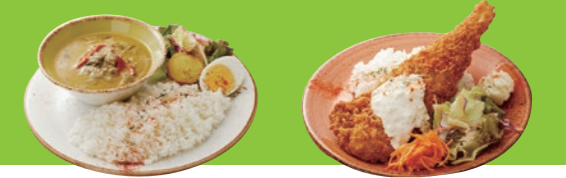
鳥取キャンパス第二食堂が生まれ変わりました
アエル アエル・ミー
AERO & AERO me!
リニューアル OPEN

4月8日から鳥取大学生協の新カフェテリア「AERO (アエル)」がオープンしました。ボリューム満点なワンプレートランチをメインに、1日約30種類のメニューを取りそろえています。

お店のコンセプトは「森」。内装は鳥取県のブランド杉である「智頭杉」を使い、落ち着いた癒しの空間に仕上げました。店名の「AERO」は「空気」を意味するラテン語で、「森の中に漂う気持ちの良い空気感」から名付けました。それだけでなく、コロナ禍であっても「ここに来れば誰かに会える(アエル)」、そんな場所になってほしいという願いも込められています。

またこちらには、テイクアウトコーナー「AERO me! (アエルミー)」も併設されています。出来立てのお弁当をホットショーケースに入れて販売、コロナ禍で店舗利用に不安を感じる方も、温かいお弁当を食べていただくことができます。大学生協のアプリ「Mycoop+」で予約すれば、売り切れの心配もありません。

鳥大生協では、この新しいカフェテリアをはじめ、メイン食堂の「マーレ」、オシャレなベーカリーカフェの「セルリア」といった特色ある店舗で学生の生活を支えていきます!



鳥大生協各店舗の利用者の8割以上が利用する
ミールカードが断然おすすめ!

学生証をかざすだけで支払いOK! 食事履歴も確認できるなど、便利な機能が付いたお食事特化型の電子マネーです。学内の各食堂と生協ショップの弁当のみに利用可能だから、健康的な学生生活に欠かせない食費を確実にキープ。しかも、最大3万円分もお得です!

湖山キャンパス 17万円の入金で最大20万円分利用可能!

米子キャンパス 15万円の入金で最大18万円分利用可能!

【令和2年度 科学研究業績表彰】



出席者による記念撮影

表彰式に出席した5名に中島学長から表彰状が授与、副賞(日ノ丸報恩会奨励金)が贈呈されました。

科学研究業績表彰は、本学教員の中から、科学研究業績(権威ある学術雑誌・紀要等に掲載されるか又は著書として刊行されたもの)が特に優れていた教員を表彰するもので、昭和29年(1954年)から毎年行われています。

<https://www.tottori-u.ac.jp/item/18333.htm>



地域学部 筒井 宏樹 准教授

論文題目 スペース・プラン -鳥取の前衛芸術家集団 1968-1977

医学部附属病院 木村 有佑 助教

論文題目 The circadian rhythm of bladder clock genes in the spontaneously hypertensive rat
(高血圧モデルラットにおける膀胱時計遺伝子の概日リズム)

工学部 中井 唱 准教授

論文題目 Estimation of chemotaxis intensity of *Salmonella* cells by the capillary assay and biased random walk simulation
(毛細管法とバイアス付きランダムウォークモデルに基づく数値解析によるサルモネラ菌の走化性強さの推定)

農学部 田中 裕之 准教授

論文題目 A novel compensating wheat-*Thinopyrum elongatum* Robertsonian translocation line with a positive effect on flour quality.
(小麦粉品質を高める新規補償コムギ-*Thinopyrum elongatum* ロバートソン型転座系統)

乾燥地研究センター 石井 孝佳 講師

論文題目 Unequal contribution of two paralogous CENH3 variants in cowpea centromere function
(ササゲの動原体機能における2種類のCENH3の不均等な貢献)



読者アンケートにご協力いただいた方へ
プレゼントが当たる!

今後のよりよい誌面作りのために、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で10名様にプレゼントを進呈いたします。



アンケートのご回答はこちらから

プレゼント応募締切 | 7/31(土)

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送以外には使用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



大学からのお知らせ

INFORMATION

サイエンス・アカデミーのご案内

要予約
受講料無料

日時 毎月第2・第4土曜日 10:30~12:00
お問い合わせ 鳥取大学地域価値創造研究教育機構
地域連携推進室 TEL 0857-31-6777

日 時	テーマ	講師
6/12 2021 土	鳥取大学における 菌類きのご研究とわたし(仮)	鳥取大学 学長 中島 廣光
6/26 2021 土	すぐく小さなものづくり技術と 医工連携で実現する次世代の医療デバイス	工学部電気情報系学科 准教授 松永 忠雄
7/10 2021 土	新型コロナウイルス感染症の流行と ワクチン接種(仮)	医学部医学科 教授 景山 誠二
8/28 2021 土	アートが彩る地域医療(仮)	医学部医学科 助教 紙本 美菜子

会場 鳥取県立図書館 2階 大研修室(鳥取市尚徳町101)

LIVE (●●) 米子市立図書館、琴浦町立図書館、加藤文太郎記念図書館、あわくら図書館、
大山町立図書館、南部町立図書館でライブ中継による聴講ができます。
zoomを利用してご自宅でも視聴できます。

新型コロナウイルス感染防止のため事前申し込みが必要です!
受講のお申し込みはこちらから
・発熱やせきなど体調に不良のある場合はご遠慮ください。・マスク着用と手指消毒にご協力ください。



鳥取大学の **今** をつぶやいています! /
鳥取大学公式Facebook & twitter

f @toririn **t @tottori_univ**

とりりんが大学のイベント情報、学生活動、
キャンパスの様子などを随時発信中!

フォローしてね

挑む、創る、未来

TOTTORI BANK 青い島の銀行です。鳥取銀行

風紋のバックナンバーは、こちらから
www.tottori-u.ac.jp/fumon

鳥取大学広報誌 検索

鳥取大学に関するお問い合わせ

■入学試験	0857-31-5061	■研究・産官学連携	0857-31-5608
■公開講座・社会貢献	0857-31-6777	■学生・学生生活	0857-31-5053
■授業料納入	0857-31-5029	■学生就職支援	0857-31-5456

その他はホームページ <https://www.tottori-u.ac.jp/ask/> をご覧ください



編集発行 / 広報委員会広報誌編集専門委員会 2021年5月発行

會見 忠則 (委員長・農学部) 関 耕二 (地域学部) 西村 正広 (医学部) 塩崎 一郎 (工学部)
 辻 渉 (農学部) 滝波 稚子 (教育支援・国際交流推進機構) 保坂 理和子 (研究推進機構) 藏田 修一 (総務企画課)

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-5006 FAX.0857-31-5018
 [E-メール] toridai-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <https://www.tottori-u.ac.jp/>